日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話｛（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番

96.1.29 No4334

国労破壊を叫ぶ

JR総連革マル解体・一掃

九六年を国鉄闘争勝利の年に

破綻した分割・民営化

もはや繕いようもない国鉄分割・民営化政策の破綻は、「一〇年目の総括評価」という時限爆弾として敵の側に鉛のように重くのしかかっています。

住専の比ではない、年度末決算すると二八兆円をこすであろう累積債務。土地を売り、株も一部売ったのに、一体これをどうするのか。累積債務のツケを国民負担に回さざるをえないとなれば、国民的議論でその責任が問われざるを得ません。

貨物会社、北海道・四国・九州、三島の経営がほとんど赤字経営。清算事業団の採用差別問題をはじめとした膨大な国家的不当労働行為の問題、これをどうするのか。

運輸省には、「平成九年度特命チーム」という危機感に満ちた名前を冠されたプロジェクトが設置されました。今年の春、遅くとも夏までには、だしようのない方針を策定するというのです。

九六年は、今まで蓋をされてきたあらゆる矛盾が一気におもてにでてくる年です。

追いつめられたJR総連革マル

とりわけ、JR東日本とJR総連・革マルの異様な癒着体制。これこそ、分割・民営化の最大の暗部です。政府・運輸省は、もはやこれにメスを入れる以外にないという判断です。

こうして、JR体制という自らの存立基盤が土台から崩れて落ちようとしている事態のなかでJR総連は、唯一の延命の道を国労解体に求めています。

「闘おう国労解体を！」「JR総連型労働運動の前進のためには、国労解体が不可欠」。ようするに、「おまえら（国労や動労千葉）がいるから、うまくいかないんだ」ということなのです。

そのための、「国労解体運動」であり、勝浦運転区廃止攻撃をとおした動労千葉に対する組織破壊攻撃なのです。

結局、自ら進んで奴隷の道に落ちた者には、奴隷の発想しかできないのです。労働者が反撃の闘いにたつことが考えられないのです。清算事業団一〇四七名の不屈の解雇撤回闘争、われわれの一〇年間の闘いが敵をここまでおいつめたのです。

「利益を上げるのは戦争」と絶叫

そもそも、革マルのいう「JR総連型労働運動」とはなにか。分割・民営化という二〇万人の首切り、国家的不当労働行為に率先協力し、そこにおける数々の裏切り、悪業を開き直り、最近では、「これまでのように雇用も賃金も要求するというわけにはいかない時代、ワークシェアリングで、自分の労働時間を半分にしてくれという要求をする、その代わり、賃金は半分でいい」。さらには、「いちばん利益を上げるのは戦争だ。だったら軍需生産でも何でもやって、食っていけるようにしなければしようがない」（日刊、四三三三号参照）と、ワークシェアリング日経連・資本の大失業攻撃、賃金破壊、雇用破壊、生活破壊の攻撃を労働者にのませる役割をし、軍需産業推進と改憲、ナチス、戦争経済を支持するものです。

「JR体制」に決着をつけよう

今年、国鉄闘争は、JR総連・革マル問題を焦点として、大きな激突が始まることは間違いありません。JR総連・革マル「JR総連型労働運動」との闘いの中に、国鉄決戦の勝敗、「大失業時代」との対決の帰趨がかかっていることは明らかです。

解雇撤回・清算事業団闘争勝利に向けて、そして、勝浦運転区廃止攻撃、強制配転、運転士登用差別など、JR東当局ーJR総連・革マルによる反動労政に怒りを燃やし、この一〇年にひとつの決着をつけるものとして、九六年をJR体制打倒の年としよう！

第三五回定期委員会

とき 二月二〇日（火）
一二時より

ところ 千葉市民会館 三階

新たな10万人合理化粉砕！ 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！